

開始時 適切な授業開始時の場をつくる

G教諭：「今日は、近畿地方の中心地、大阪のことを学習します。

まず、この掛け地図で、近畿地方の地形を復習しましょう。

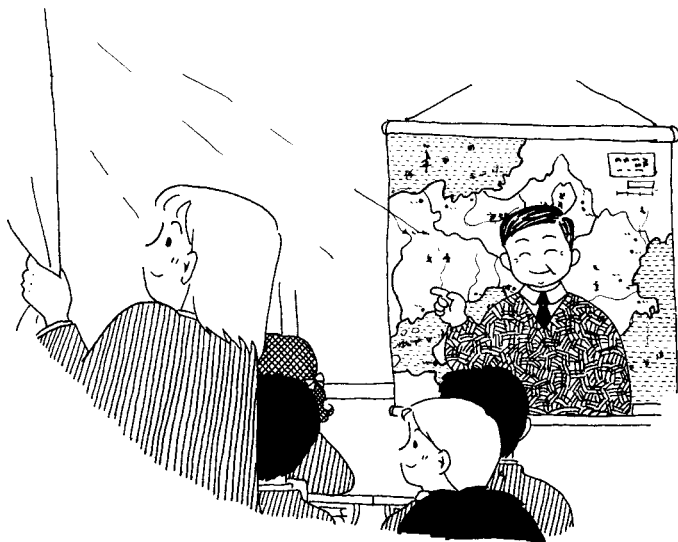
えー、後ろの人、私の声が届きますか？」

Hさん：「聞こえませーす。」

G教諭：「じゃあ安心だ。今ちょっと風邪を引いているので、聞きづらかったら言ってください。あ、それから地図はこの位置で見えますか？端っこの人や、後ろで見えにくい人は、少し机を動かしてもいいですよ。」

Iさん：「先生、黒板が光って字が見えないんですけど…。」

G教諭：「そう、光ってる…。陽が入ってきたね。窓際の人、カーテンを引いてくれますか。それでは、始めましょう。」



この事例では、授業を始める前に、すべての子供が学習しやすい環境になっているかを教師が気にかけて、声をかけています。この声かけは、子供の集中を促す効果もあります。

快適な教室環境の整備をする

快適な教室環境とは、室内が気持ちよく整頓され、掃除が行き届いていることは言うまでもありません。その外に換気に留意すること、採光や室温などが適切に調整されていること、座席の位置の条件が悪い子供に細やかな気配りをするなどが、基本的な配慮事項です。

さらに、板書の字の大きさと位置、教材や掲示物の提示の仕方などへの配慮も、子供の学習意欲を喚起させる重要な要素となります。事例では、教師が授業の始めに「後ろまで先生の声が聞こえますか?」「掛け地図はこの位置で見えますか?」と子供に確認しています。さらに「見えにくい人は机を動かしても…。」との配慮をしています。

このように子供に確認したり、教師が自分の目で確かめて、子供の立場に立って学習の条件を整えていく姿勢が大切です。

始業と同時に子供に気持ちの切り換えを促す

休み時間と授業の切り換えを適切に行うことは、子供が1時間の授業を大切にする上で重要になります。始業のチャイムが鳴るときには教師は黒板の前に立ち、子供の姿を見回すゆとりが大切です。そして、チャイムのあと、明るく声をかけ、授業開始を宣言します。なお、クラス全体が落ち着かない場合には、授業に取り組む姿勢をきちんとさせるなど、臨機応変な対応が必要です。